

報道発表資料
平成 24 年 4 月 26 日
気 象 庁

「長周期地震動に関する情報のあり方報告書」について

高層ビルや、石油タンク、長大橋等の長大構造物は、大地震に伴って発生する長周期地震動によって大きな揺れを生じることがあります。平成 15 年（2003 年）十勝沖地震では苫小牧市の石油タンクで、スロッシング^(※)によりタンク設備が損傷して火災が発生したほか、平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震では、大阪市内や東京都内などの高層ビル上層階で大きな揺れとなるなど、長周期地震動による被害が発生しました。1970 年代以降、都市の高層化等の進展等により長周期地震動による影響を受ける人口が増加していますが、震度では、長周期地震動による高層ビルなどでの揺れを評価できないことが課題となっていました。

このため、気象庁では、昨年度、有識者及び関係機関からなる「長周期地震動に関する情報のあり方検討会」を立ち上げ、長大構造物に影響を及ぼす長周期地震動に関する新たな防災情報の発表に向け、その情報のあり方について検討を進めてきました。

今般、その成果を、「長周期地震動に関する情報のあり方報告書」としてとりまとめ、公表しましたのでお知らせします。

今後、別途検討会を開催し、具体的な発表の方法等について検討します。また、将来的に長周期地震動に関する予報を発表するための技術的検討を進めます。

※スロッシング：液体を入れた容器の振動により引き起こされる内容液の液面揺動

【本件に関する問合せ先】

気象庁地震火山部地震津波監視課（電話 03-3212-8341 内線 4559、4582）